



微 助 人

び すけっ と

第2号

発行 令和7年3月27日

発行元 嬉野町民生児童委員協議会

責任者 宮崎 京子

題 字 久保 二三子
(民生委員・児童委員協力員)

嬉野町民生児童委員協議会だより

充実した地域活動を目指して

令和6年度第93回全国民生委員・児童委員大会が、11月21日、22日宮崎県宮崎市「シーガイア」において開催されました。

今は、民生委員のなり手のないことで、半数以上が高齢者となっております。今後若い方への引継ぎをお願いしたいと思っています。「持続可能な民生委員・児童委員制度、活動に向けて取り組むべきこと」シンポジウムに参加しました。

令和4年の一斉改選では、委員定数が初めて24万人を越えるとともに、改選時点での欠員が2万5千人にのぼり「なり手確保」の困難な状態が明確になりました。



嬉野町民生児童委員協議会
会長 宮崎 京子

委員の年齢については、地域で差はありますが、60代が減少する一方、70代以上が増加しており、現時点で60才以上が委員の80%を占める構造となっております。地域にに応じて地元企業に対して協力依頼の文書を発行し、地域社会への参画や、民生委員の業務への理解促進に取り組んでいること、民生委員・児童委員が働きながら活動できるように、委員が勤める企業の理解促進に向けて活動している、富山県高岡市の取り組みも聞きました。

今後について、一期から二期、二期から三期と続け、やりがいをもって、やっていきましよう。委員相互間の報告・連絡・相談など必要な情報は共有し、連携を深めましよう。一人で悩まないで楽しく活動しましよう。委員全員が活動しやすいように、孤立しないように、一人で悩まないで楽しく活動しましよう。

なり手確保の取り組みについての感想

・なり手確保の取り組みは、早期に結果がでるものではありません。

- ・民生委員自身が民生委員の必要性を理解する必要があります。
- ・日頃から、自治会など顔の見える関係づくりが大切であります。
- ・地域住民に民生委員の存在や魅力、やりがいを知ってもらう、広報活動は重要であります。
- ・未来のある子ども達に主任児童委員及び児童委員の存在を知ってもらうためには、学校との連携が大切であります。
- ・行政や社協等が民生委員の必要性を理解するため、日頃から連携が大切であります。

この大会に参加して、民生委員が安心して活動できる地域では、高齢者が安心して暮らし続けることができるのだということ、民生委員としてできることから実践していこうと思えました。自分の活動を見直す機会をいただき、ありがとうございました。



嬉野町民生委員児童委員協議会では、民生委員・児童委員の役割や活動、支援のあり方などについて取りまとめた「活動の目安Q&A」を作成し、委員活動の指針として活用しております。今回はその一部を抜粋してご紹介します。

Q 支援している方から、買物を頼まれたり部屋の掃除を頼まれたりします。どのように支援していけばよいでしょうか。

A 買い物や部屋の掃除は、民生委員・児童委員の役割ではありません。買い物支援などを行うボランティアやNPOなども増えてきています。そのような団体に相談する(いもつ)方法です。

Q 支援外の用件(食事作り、鍵や通帳、現金の管理など)を頼まれました。どうしたらよいでしょうか。

A 支援外の用件は、民生委員・児童委員の役割ではありません。①食事作り…ホームヘルパーの利用などについて、検討するようにならましよう。

②鍵や通帳、現金の管理…鍵や通帳、現金を預かつてはいけません。日常生活自立支援事業の対象となる場合がありますので、社会福祉協議会などに相談しましよう。

◎民生委員・児童委員にもできること、できないことがあります。皆様のご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

6年目になった民生委員・児童委員活動

民生委員・児童委員は、堅く言うと、民生委員法に基づき、厚生労働大臣から委嘱された非常勤の公務員と位置づけされていますが、柔らかく言えば地域の方々と行政とのつなぎ役にすぎません。そもそも、私がこの仕事を引き受けたのは、地区の区長さんが民生委員を引き受けてもらうよう依頼に来られた時、「民生委員は大変な仕事ばい」と常々聞いていたので、頑なにお断りしてました。しかし、家内曰く「お父さんがしないのなら私がやります」と言い出したため、この仕事を家内が出来るはずがないと思い、仕方なく引き受けた次第です。

当初は、不安で何をしたいのか戸惑っていましたが、就任して直ぐに「嬉野町民生委員・児童委員活動の目安Q&A」の発刊に携わり、活動について一から勉強させてもらい、我々委員と行政の役割が理解できました。

そして、令和2年に行われた国勢調査において、自分の担当地域を受け持ち、地域の家族構成等把握できたことが、その後の活動がスムーズにいった一因だと思います。

委員の活動内容は、「Q&A」に、詳しく書いていますが、簡潔に言うと、原則として75歳以上の独居老人宅を月に1、2回訪問し近況をうかがうことです。ときには、1時間くらいお話される方もおられますが、そういうときにこそ、相槌を打ちながら良い話し相手になるように努めています。

そのほかには、月一回、事務連絡的な会議が開催されます。

また、県単位のセミナーが年数回ありますが、希望者のみ参加です。ちなみに私はほぼ参加し、勉強しました。が殆ど頭には残ってません。

就任して反省したことは、「民生委員は大変な仕事」と思っていたことで、先輩から、「何をするにしても、自分が大変だと思つとその仕事は大変なことになり、反対に、大変でも何でも無いと言ひ聞かせて行動すると気楽にできるよ」と言われ、それを思い出しながら活動すると、別に苦になることはなかったと実感していることです。

なので、「民生委員は大変な仕事」と思い込んでいたのは、食わず嫌いと同じことでした。

よって、私だけでなく誰にでもできる活動ですので、地区の区長さんから就任のお話が来たら、是非とも引き受けてくださるようお願いします。

そして、得たことは、委員の皆さんと仲間として活動しながら勉強したことや、地域の方々と顔見知りになり、道端で会ったとき等は声かけをしてもらい、嬉しい気持ちになったこと。さらには、子供たちの通学時、ときどき横断歩道であいさつ運動をしているうちに仲良くなったこと等です。

今思うと、もう少し若い時に民生委員の話が来ていたら、もっと上手に活動出来たと思いますが、私のわずかな年の功もありつつ、周囲の皆さんのご協力のおかげで、これまで何とか務めることが出来たことに感謝してます。

副会長 大吉 晴幸

編集後記

昨年、嬉野町民生児童委員協議会だより『微助人』を創刊し早1年経過し月日の流れの速さを感じる1年でした。昨年7月パリオリンピックが開催され金メダル20個銀メダル12個銅メダル13個と日本の活躍で沸き、佐賀県で10月開催された県国民スポーツ大会では佐賀県の総合順位は男女総合で2位、女子総合で2位と佐賀県民は歓喜の1年でした。令和6年度は嬉野町民生児童委員は各部会で視察研修を行い有意義な体験や見聞を広め今後の福祉活動の糧になる時間を過ごしました。また定例の民生児童委員協議会では手話やゲートキーパー、特殊詐欺などの講義も行われ皆貴重な時間を過ごせました。今年度は当会で実施している「子ども日民生委員・児童委員委嘱活動」について、福岡県みやこ町、天草市有明地区、鳥栖市の民生委員児童委員協議会から視察がありました。民生委員児童委員は3年の任期であり、今年12月に斉改選を控えております。区長や現民生委員から次の民生委員打診の話があれは是非受諾されることを願うばかりです。

広報副委員長
庄山 祝



令和6年度 嬉野町民生児童委員協議会活動報告

今年度は、コロナ禍以降数年ぶりに各部会ごとの視察研修を実施しました。
その内容をご紹介します。

福祉部会

部会長 庄山 祝

福祉部会は令和6年10月21日、福岡県八女市の社会福祉法人上横山福祉会にて視察研修を実施しました。上横山福祉会は、昭和45年に障害者支援施設として「蓮の実園」を開設し、平成30年には、現在の八女市中心街の地に蓮の実園・蓮の実団地などを含む事業所を移転され、令和7年には60周年を迎えられます。法人理念は「障がい者に対する設立当初の思いを受け継ぎ時代に応じた福祉サービスを提供しています」と障害者や家族も安心して過ごせる施設を運営されています。市街地へ移転後、6年が経過しますが、建物もまだ新しく、交通の便もよくなったことにより、施設職員、利用者、その家族にも笑顔が増えています。また、施設入所される方が生活される部屋は個室を基本とし、相互見守りの観点で2人部屋もあり、各部屋にはエアコンやテレビ等設置されています。「蓮の実団地」では生活介護事業として農産物の出荷調整作業などが行われていました。多機能型事業所「ワークスペース蓮」ではおもちゃの袋詰めや防草ネットのカット作業などが行われ、成果に対して工賃が支払われています。理事長をはじめ施設職員や支援員の方などの温かいお出迎えや誠意なご対応に触れ、研修に参加したメンバーも好感を抱いた視察研修でした。



老人部会

部会長 三根 秀明

老人部会は自助と共助をテーマに、令和6年10月25日、熊本県防災センターでの研修に臨みました。昨今の押し寄せる自然災害に対し、防災意識を高めていこうという主旨です。

熊本県では「くまもとマイタイムライン」の普及に力を入れていました。マイタイムラインとは自分や家族の防災行動計画のことです。5段階の警戒レベルとハザードマップを軸に、自分や家族の命を守るために、あらかじめ取るべき避難行動を時系列にまとめて準備します。

警戒レベル①は災害への心構えを高め、②は自分の避難行動を確認、③は危険な場所から高齢者等は避難、④は危険な場所から全員避難、⑤は命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保するレベル。

洪水や土砂災害などの災害リスクをまとめたハザードマップを見ながら、①自宅の確認、②自宅周辺に色や線が引かれていないかを確認、③災害リスクの確認、④災害リスクに応じた避難先を確認、⑤避難先に移動する経路を確認していきます。

マイタイムラインの作成はYouTubeを観ながら簡単にできます。何度も作り直せます。印刷もできますので、冷蔵庫などに貼ればいつでも確認できます。自然災害は短時間で襲ってきます。平時の準備こそ力を入れるべきと肝に銘じました。

自助ができて、民生委員として共助へ取り組んでいけます。心は焦りますが、出来ることを徐々に進めていきたいと思ひます。

ボランティア部会

部会長 松尾 明美

私達ボランティア部会は、令和6年10月30日、福岡県春日市にあるクローバープラザに見学に行ってきました。クローバープラザは・総合福祉センター・男女共同参画センター・人権啓発情報センターの3つのセンターで構成された福岡県立の複合施設です。8階建ての大きな施設でした。

はじめに人権啓発展示室では、作られた身分制度の中でたくましく生きてきた人々の姿をさまざまな歴史資料や写真、映像などで知ることができました。

次に、福祉用具展示室では、車いすや歩行器など高齢の方や障害のある方の日常生活をサポートするための福祉用具が約600点ほど展示されていました。委員自身も明日は我身とばかりに、熱心に見学や質問されたりで、あっという間の時間でした。専門相談員も配置されており、とてもわかりやすかったです。

最後に生涯あんしん住宅を見学させていただきました。生涯にわたって快適に暮らすことができるように工夫・設計されたバリアフリーの家でした。コンセプトを実現するための5つの提案として①加齢や身体特性に応じた住まい、②耐震・防犯性能の高い住まい、③省エネ性能の高い住まい、④自然エネルギーを有効活用した住まい、⑤県産材や県内製品を採用した住まいとし、展示されてる住宅は、本当にすばらしい家でした。

私達ボランティア部会も今回の体験を通じ知識、情報、活動の交流ができ、地域の皆様と豊かな社会を築いていきたいと感じたところです。意義ある研修ができ、ありがとうございました。



月	事業の内容
4月	・春の交通安全運動及びあいさつ運動 ・前年度決算報告及び新年度予算（案）・事業計画について ・嬉野市戦没者追悼式への出席 ・嬉野市民生委員児童委員協議会役員会（役員のみ）
5月	・避難行動要支援者名簿・個別避難計画について ・愛の一声運動について ・「民生委員・児童委員の日」町内美化活動 ・嬉野市民生児童委員協議会総会及び研修会
6月	・福祉有償運送について ・老人クラブ会長との交流グラウンドゴルフ大会
7月	・ひとり親家庭等医療費助成について ・子どもの見守り・遊び場等点検 ・子ども一日民生委員・児童委員委嘱活動
8月	・手話研修会 ・共同募金資材募金について ・全国児童委員・主任児童委員活動研修会
9月	・嬉野市消費者安全確保地域協議会について ・地区敬老会への参加（老人福祉週間） ・行政区長との連絡を密にする月間 ・交通安全推進運動 ・介護施設へのタオル寄贈
10月	・視察対応（福岡県みやこ町） ・各部会視察研修（八女市、熊本市、春日市）



5月2日 美化活動（嬉野）



5月2日 美化活動（吉田）



7月31日 子ども一日民生委員・児童委員委嘱活動

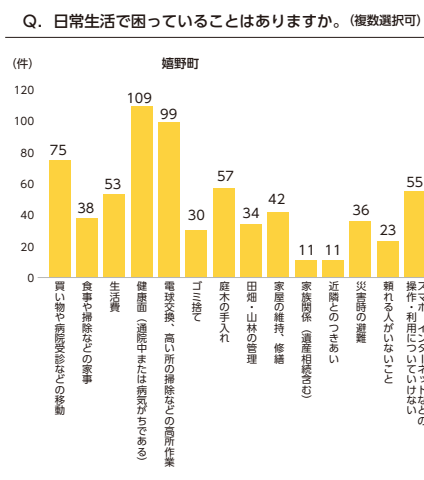
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

月	事業の内容
11月	・児童虐待防止推進月間 ・街頭募金活動 ・視察対応（熊本県天草市有明地区）
12月	・ゲートキーパー研修 ・準要保護（就学援助）について ・一人暮らし高齢者年末対策（年賀はがき配布） ・視察対応（鳥栖市） ・嬉野市民生委員児童委員協議会役員会（役員のみ）
1月	・消費生活相談について ・嬉野市民生児童委員協議会交流会 ・市町社協災害ボランティアセンター設置・運営研修会
2月	・次年度事業計画（案）検討 ・年間標語検討 ・民生委員・児童委員セミナー（県主催）
3月	・嬉野市社会福祉大会への出席 ・緊急通報システムについて ・次年度事業計画について ・年間標語決定 ・主任児童委員研修会（県主催） ・中堅民生委員・児童委員研修会（県主催）

このほかにも各種研修会等にも参加し、委員としての自己研さんに努めております。

ございました。

嬉野町においては健康面、高所作業、買い物や病院受診などのための移動、庭木の手入れ、スマホなどの操作面に対する困りごとが上位に挙がりました。また、嬉野町での回答者356人のうち約60%の214人は車も持ちではありません。吉田地区の民生委員に聞き取りを行ったところ、山間部である吉田地区においては買い物支援も喫緊の課題となっております。こうした困りごとに対する生活支援サービスやタクシー代の補助、コミュニティバスをはじめ移動支援の拡充に関するなど広く市へ要望しました。今後の対策に期待します。調査にご協力いただいた皆様ありがとうございます。



令和5年12月、嬉野市民児協において市内75歳以上のひとり暮らしの高齢者を対象に日頃の生活上の困りごとを把握するためアンケート調査を実施しました。その一部をご紹介します。

ひとり暮らし高齢者アンケート結果を受け、その対策を市へ要望しました